

## 【屋内用塗料 注意事項】

■セトールB Lデコール

■セトールB Lユニットップ

■水性フローア

### 施工上の注意

- 必ず乾燥した木材に塗ってください。含水率は14%以下が目安です。
- 気温5℃以下、湿度85%以上の場合は塗らないでください。
- 直射日光が当たる場所では塗らないでください。
- 屋内専用です。屋外には使用しないでください。
- 使用するときにはあまり容器を振らず、塗料を底からゆっくりと十分かき混ぜて均等にしてください（泡立てないように）。
- 木材表面の汚れ、付着物、油分、ワックス成分などはしっかり取り除いてから塗ってください。
- 吸い込みムラを抑制するために、必要に応じて木材表面をサンドペーパー（#240～320）で研磨して均一にしてください。
- 樹種や表面状態によって塗布量は大きく変動することがあります。
- 原則希釈は不要ですが、粘度が高く塗りにくい場合、また乾燥が早く塗りにくい場合など、水で薄めて（5～10%以内）使用してください。
- 塗装前にマスキングテープなどでしっかり養生を行い、他の部分に塗料が付着しないようにしてください。万が一付着した場合は、速やかに拭き取ってください。
- コシのある刷毛（水性用）で木目に沿って薄く伸ばすように塗装してください。ローラーやスプレー塗装には不向きです。
- 刷毛ムラ、ダレが発生しないように均一に塗ってください。また継目の部分などは塗り残しに注意してください。
- 重ね塗りの際は必ずよく乾燥させてください。乾燥時間は気温、湿度、通風、木材の種類などにより大きく異なります。
- 下塗り（1回目塗装）乾燥後、表面に毛羽立ちが生じることがあります。表面を軽くサンダーがけ（#360～#400）して毛羽立ちを取り除いてください。
- 水廻りなど頻繁に水が掛かる部分には3回塗りすることをおすすめします。
- 必要以上に塗り重ねしないでください。また、一度に厚塗りしないでください。塗膜の通気性が妨げられ、本来の機能性を発揮できない可能性があります。
- 仕上がり感や色調は、下地（素材）の色、塗り回数、塗料の吸い込み具合などによって異なりますので、塗装前に必ず試し塗りをしてください。
- 作業場所は換気を良くしてください。
- 有機溶剤やアルコールは塗膜を起す可能性がありますので、使用は避けてください。
- 作業を中断する場合や作業終了後の用具は水またはぬるま湯でよく洗ってください。

### 素材・条件による対応

#### <ヤニを多く含む木材>

塗装後、塗膜表面からヤニが吹き出すことがあります。ヤニが硬化した後にヘラで除去してください。また塗装前、素材表面にヤニが吹き出している場合は塗料用シンナー、ラッカーシンナーを含ませたウェスで完全にヤニを拭き取ってください。

#### <樹脂分を多く含む木材>

ウェスタンレッドシーダー、メランティ、オーク、アフゼリアなど水溶性樹脂分を多く含む木材に塗ると『にじみ』が発生する可能性がありますのでご注意ください。

### <異なる塗料の上に塗る場合>

セトールTSインテリアやフローア（油性）などシックンズ屋内用の旧製品（油性 アルキド樹脂系）が塗装されている場合、その他水性塗料への上塗りが可能です。汚れ、油分などをしっかり除去してから、表面を目粗しサンディング(#180~#240)してください。

※セトールTSインテリアやフローア（油性）は現在廃番となっています。

ワックス類は剥離剤などで完全に除去してから塗ってください。ラッカー・ウレタン系の旧塗膜の場合、入念にサンディングするか塗膜剥離剤を使用して、旧塗膜を完全に除去してから塗ってください。

### <新しい塗膜を除去する場合>

塗装後、やむなく除去する必要がある時には、サンドペーパーで入念に研磨するか、塗膜剥離剤を使用して取り除いてください。

## 安全衛生上の注意

### <救急処置>

- 目に入った場合には直ちに水で洗い、出来るだけ早く医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、出来るだけ早く医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には多量の石けん水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは医師の診断を受けてください。

### <取扱注意事項(安全・環境面)>

- 目に入らないよう、また皮膚に触れないよう、保護マスク、保護メガネ、保護手袋や作業着などを着用し注意して取り扱ってください。誤飲しないよう注意してください。
- 次の人は取り扱わないでください。
  - ・本人又は血族の方が、ジンマシン、かぶれ、気管支喘息、へん頭痛、アレルギーなどをおこしやすい体質の方
  - ・体の調子が悪い方、睡眠不足、二日酔い、高熱のある方、妊娠されている方
- 塗装中、乾燥中ともに換気をよくし、その後も塗料の臭いなくなるまではときどき換気してください。
- 容器は塗料を使い切ってから捨ててください。
- やむを得ず塗料を捨てる時は、新聞紙などに塗り広げ、乾かしてから一般ゴミとして処分してください。

### <保管>

- 残った塗料はフタをしっかりと密閉し、直射日光や-5℃以下（凍結するため）の場所を避けて、幼児の手の届かない場所に保管してください。
- 残量が少ない時には小缶に移し替えたうえで、できるだけ早く使い切ってください。
- 表面に硬化した膜が張ったときは膜を除去してから使用してください。

## メンテナンス

ワックスがけなどの必要はありません。日常のお手入れとして表面が汚れている場合は、水または中性洗剤を薄めて布に含ませ軽く拭きとってください。

塗膜の傷み具合は使用状況により大きく異なりますが、屋内用塗料は約4~5年が塗り替えの目安となります。素材をいつまでも美しく保つためには適切な判断の上、定期的なメンテナンスをおすすめします。